

平成29年度第1回 習志野市地域支え合い推進協議会

【開催日時・場所】

平成29年7月12日（水） 14時00分から
習志野市消防庁舎4階会議室

【出席者】

（委員）※会長、副会長の後50音順

山下会長、沢田副会長、大川委員、木野委員、佐藤委員、杉本委員、杉山委員、
鈴木委員、西野委員、荷見委員、平賀委員、藤平委員、松丸委員

（市）

遠山健康福祉部長、菅原健康福祉部次長、海老原高齢者支援課長、
西川健康福祉部主幹、岡澤同課係長、伊藤同課係長、中村同課主査、
和田同課副主査、田久保同課主事

（第2層生活支援コーディネーター）

川崎（谷津圏域）、田久保（秋津圏域）、山口（津田沼・鷺沼圏域）、
野村（屋敷圏域）、細野（東習志野圏域）

【傍聴人数】

7人

【次第】

1 開会

2 健康福祉部部長挨拶

3 議事

（1）第2層生活支援コーディネーター自己紹介

（2）市民活動と公助の役割～「地域支え合い活動」事例発表を通じて～
※西野委員及び木野委員からの発表並びにグループ討議

（3）シニアサポーター養成講座についての報告

（4）習志野市における住民主体の支援（素案）について

4 その他

5 閉会

【配布資料】

資料1 地域支え合い推進協議会員名簿

資料2 第2層生活支援コーディネーター名簿及び地域アセスメントシート

資料3 活動事例発表について（西野委員）

資料4 活動事例発表について（木野委員）

資料5 シニアサポーター養成講座のカリキュラムについて

資料6 習志野市における住民主体の支援（素案）

【1 開会】

山下会長の司会進行により、開会。

【2 健康福祉部部長から挨拶】

健康福祉部部長から、委員に対し挨拶。

【3 議事】

(1) 第2層生活支援コーディネーター自己紹介

(岡澤高齢者支援課係長より、資料2に基づいて紹介及び現況の活動について報告)

(2) 市民活動と公助の役割～「地域支え合い活動」事例発表を通じて～

※西野委員及び木野委員からの発表並びにグループ討議

<山下会長>

コーディネーターで大事なことは住民と話すことであり、高齢者、子ども、生活困窮者などを横につなげて地域づくりを目指す包括的な支援をしてもらいたい。

また、高齢者の支え合いに関する住民主体の支援は行政にせかされてやるものではない。誰が作るのかという意識作りに関して、コーディネーターや、公助という行政の役割は何なのかということについて意識合わせを図っていききたい。

実際に市民活動をなさっている方に御発表いただき、民間市民活動をどのように推進する基盤を整えるのか、公助の役割について考えていきたい。

活動事例発表

(西野委員より、資料3に基づいて事例発表)

活動事例発表

(木野委員より、資料4に基づいて事例発表)

<山下会長>

事例を伺い、グループ討議をしていただく。テーマは住民、行政、社会福祉協議会がどういった活動をすることで助け合いが促進されるのか、忌憚のない意見をいただきたい。

グループ討議

グループ 1（座長は山下会長）

- 山下会長（淑徳大学 総合福祉部 准教授）
- 大川委員（居宅介護支援事業所あろんぐらいふ）
- 木野委員（市民協働団体運営）
- 荷見委員（生活協同組合パルシステム千葉）
- 藤平委員（ならしの地域福祉事業所ぬくもり）
- 松丸委員（習志野市秋津高齢者相談センター）
- 野村第 2 層生活支援コーディネーター（屋敷圏域）
- 細野第 2 層生活支援コーディネーター（東習志野圏域）

グループ 2（座長は杉山委員）

- 杉山委員（習志野市社会福祉協議会（習志野市生活支援コーディネーター））
- 沢田副会長（社会福祉法人 豊立会 習志野市立東部デイサービスセンター）
- 佐藤委員（マイプランならしの訪問介護事業所）
- 杉本委員（民生委員児童委員）
- 鈴木委員（市民協働団体運営）
- 西野委員（民生委員児童委員）
- 平賀委員（習志野市シルバー人材センター）
- 川崎第 2 層生活支援コーディネーター（谷津圏域）
- 田久保第 2 層生活支援コーディネーター（秋津圏域）
- 山口第 2 層生活支援コーディネーター（津田沼・鷺沼圏域）

グループ 1

<野村第 2 層生活支援コーディネーター>

サロンについてと訪問について話し合った。

サロンについては、送迎が難しいので参加しづらい、近所だから嫌だ、仲が悪い人がいると行かないという人や行政の紹介があると参加しやすいという人がいるので、選択の幅があると良い。

また、元気な高齢者は、サロンに参加できるが、元気でない高齢者はサロンに参加できないなど、今後サロンをどのように展開していくのか考える必要がある。

小学校単位でサロンができればいいという意見や、回数は月 2 回くらいが理想的という意見があった。場所に関して、地域によって会場の利用料が違うのに不公平を感じるので、利用料の問題をどうするかという意見があった。また、移動に関して、送迎があると参加の人数が多いため、送迎をどうするかという意見もあった。また、担い手の支援や保障に関する支援があると良いと思う。

次に訪問については、サロンに 2 回以上来ない人がいたら訪問するという約

束を作り、フォローする役割の人を置き、行政と協働して行えば、より進んだ支援や必要なことをフォローができるという意見があった。

グループ2

<田久保第2層生活支援コーディネーター>

市民活動については、傾聴ボランティア、コンビニや店での見守り・報告といった活動が意見としてあった。他に日中独居の人への外出支援サービスや、交通ボランティアによる自転車マナーの呼びかけ、ゴミ捨てに関して曜日がわからなくなる人への声掛けという意見もあった。また、1回5分くらいの家事支援や免許返納者への移動支援、高層住宅における階段の見守りといった意見もあった。

公助については、サロンの立ち上げにかかわってほしい。活動の場の提供、また、こんな支援・活動をやっているという情報発信、PRをしてほしい。さらに、ボランティアのリーダーの育成を行ってほしいという意見があった。ボランティアは見返りを求めているが、市役所からボランティアに対して評価したり、感謝したりすることで、やりがいを感じられると思う。また、サービスの担い手の事故の保障も行政が担うとよいという意見があった。

問題としては、家事支援等ではプライバシーの問題があり、どのようにすればサービスを受けてもらえるか考えないといけない。例えば、サービス利用者のこんなことをしてもらえてよかった、助かったという声を発信していけば、安心して利用できるのではないかという意見があった。

<山下会長>

グループ討議で公助とはどのようなことが考えられるのか話し合いをしてもらった。公助あるいは民間活動を支援するには、いくつもやる必要がある。

立上げ支援は、立上げのノウハウや担い手の集め方、運営者の育成などの先行例や具体例を踏まえて説明することや、行政と一緒にやっていくことが重要。

また、行政による基盤整備が重要になってくる。

一方で、社会福祉協議会などの民間活動支援で必要なのはノウハウ、先行例、失敗談、その他話し合う場を整備し、住民が地域社会で役割があり、必要とされていることを実感できるかどうかを民間活動支援の軸にしながら関わることである。

住民主体とは、市民の方が物語を作っている主体だと実感できることが必要である。第2層コーディネーターも市民活動を作ろうとするとき、住民の方が習志野市の中で役割がある、居場所があるという状態を意図的に形成していく必要がある。住民と一緒に、あるいは、住民が主体としてその町を作っていくことを支援し、その中で住民同士が相談を始めることに価値を置いて、関わっていくことが大切である。

行政には、地域の支え合いの活動を一つの情報として発信し、提供していく基盤を作っていく必要があると思う。利用を躊躇する人の背中を市民同士でどうやって押し合っていくかという、消費者教育や市民支え合い教育を考えないといけない。大事なのはこういった活動があるから習志野市が豊かになっているという評価する仕組みだと思う。

以上をまとめると、行政の取り組みの中で、これから市民活動をどのように後ろから支え、構造的な手当てをし、プロセスの支援で民間の社会福祉の意識を共同し、出していくか、一連の流れで考えていくことだと思う。

(3) シニアサポーター養成講座についての報告

(本市の第1層生活支援コーディネーター杉山委員より、資料5に基づいて説明。)

(4) 習志野市における住民主体の支援(素案)について

(岡澤高齢者支援課係長より、資料6に基づき説明。)

<山下会長>

私たちの議論は段々と制度仕組みの方に移っていくということについてご理解いただきたい。

介護予防生活支援サービスとは住民によって手作りのまちづくり介護支援等を行うことに対して、習志野市がどのような財政補助や支援を組んでいくか、行政や民間の地域福祉推進団体が市民のまちづくりにどういうサポートがあるか、あるいは、回数とか対象者数とか事業の安定性のような基準が必要になっていく、いわゆる、市民と行政が一緒になって作っていくサービスである。サービスの仕組み等に関して、習志野市が一方的に決めるのではなく、協議会として適宜意見をしていきたい。

【4 その他】

<西川健康福祉部主幹>

第2回協議会は11月14日、第3回協議会は2月6日の開催予定とした。

【5 閉会】